

平成20年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	四日市ドーム
所在地	四日市市大字羽津甲5169番地
指定管理者	<p>名称 トーエネックグループ 構成団体 株式会社トーエネック 新生ビルテクノ株式会社 シンコースポーツ株式会社</p> <p>住所 名古屋市中区栄1丁目20番31号</p>
モニタリングの実施方針・方法等	<p>本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。</p> <p>その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に示された項目ごとに、次葉の通り、具体的な業務の履行状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。</p>
担当部課(問合せ先)	<p>教育委員会スポーツ課</p> <p>TEL：059-354-8428</p> <p>E-mail：sports@city.yokkaichi.mie.jp</p>

■ モニタリングの総合コメント

開館日を増やしたことや商業系イベントの開催が増加したことから、ドーム利用者数は対前年比30,000人余りの増加となった。これに伴い、利用料金収入も予算額に対し3,400千円程度の増収となった。このことは、指定管理者の努力による利用者満足度の向上の現れと解され、大いに評価できる。一方、事業面では、指定管理者グループの構成団体である専門企業によりスポーツ教室が開催され、受講者数も昨年度から倍増していることは十分評価できる。清掃や設備保守面では、空調設備保守など業務の一部再委託を効果的に行った結果、特に大きなトラブルもなく良好な管理がなされている。また、修繕についても適切に対応がなされている。最後に事業の収支面では、概ね年間計画を達成した中、若干の黒字となり管理運営は良好と判断する。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

市民から信頼を得られる運営の基本は、従業員の質の向上であるので電話の対応、受付事務などの接遇や設備関係をより熟知するための研修に継続して取り組むこと。

また、主要施設であるアリーナの利用率は高水準を維持しているが、それ以外の会議室等の利用促進を図るべく、市民や企業に対するPRを展開すること。

更に、スポーツ教室の企画運営では、講座内容が主に女性を対象とした健康志向に偏っているので、子どもを対象とした各種教室やトップアスリートなどによる、より競技志向の高い講座などドームの特性を活かした事業を検討すること。一般利用申込者とのバランスにも配慮が必要なことから、困難な面も考えられるが、より一層の努力を期待する。

基本的な考え方（施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮）

合目的性・公平性・効果性

当該施設は、市民の健康づくり、体力づくり及び競技力の向上の場並びに多様なイベントの場を提供するため設置されたもので、その利用形態はアマチュアスポーツ、式典講演会、展示・見本市など多様にわたり、高齢者から子どもまで約213千人余りの市民等に利用されている。また、主要施設であるアリーナの利用率は99.4%（実利用日／開館日）と高い水準を維持しており、設置の目的を充分果たしていると考ええる。

業務内容

機能性・独創性（事業への具体的な取り組み方）

自主事業のスポーツ教室では、ヨガやエアロビクスの講座を全81回実施し、延べ1,238人の参加があった。参加者数は昨年度から倍増しており評価できるが、主に女性を対象とした健康志向の講座のみであり、内容の拡充を検討願いたい。

責任性・実行性（施設の運営体制や組織）

指定管理にあたり当指定管理グループは、それぞれの得意分野の会社の集合体であるため責任体制を明確にし、運営をマネジメントする必要がある。

明瞭性・規律性（適正な事務や経理）

当該施設の管理運営に当たっては、四日市ドーム条例などの規定により適正に実施されている。また、経理面では、グループ三社の協定に基づき、代表団体であるトーエネックの会計システムを使用し、正確な処理が行われている。

安全性（安全管理、緊急時等の対応）

緊急事態発生の対応マニュアルや緊急連絡網が整備されている。また、AEDを適切に使用するため、従業員に普通救命講習会を受講させるなどの措置が取られている。

社会性（環境等への配慮）

ドーム委託仕様書に基づく清掃や植栽管理を実施し、施設の景観は良好に保持されている。また、物品等の調達ではグリーン購入に配慮し環境負荷の低減に努めるとともに、リサイクルの推進や分別による廃棄物の適正処理がなされている。

事業収支

経済性

歳入、歳出とも当初予算額を上回ったが、開館日を増やしたことや非スポーツ系イベントの開催があったことから利用料金収入が好調であったため、最終的な収支は若干の黒字となっている。特に必要な修繕を怠る等の不誠実な事実もないことから、適正な収支と判断する。

団体の経営状態

経営の健全性

グループ各社の直近の決算資料を確認したところ、各社とも経営上問題となる事項はなく、健全性は確保されていると判断した。

施設概要調書

平成20年度

1. 施設の概要

施設名	四日市ドーム		所管課: スポーツ課
所在地	四日市市大字羽津甲5169		設置年月: 平成9年7月
設置目的	市民の健康づくり、体力づくり及び競技力の向上を図る場並びに多種多様なイベント開催の場を提供することにより住民の福祉増進を図ること		
設置の根拠 (法令、条例等)	四日市ドーム条例		
施設の概要	設備の概要	敷地面積 (㎡)	39,300㎡
		延床面積 (㎡)	23,143㎡
施設の概要	事業概要	構造 鉄筋コンクリート造 地下1階、地上3階 建築面積 約21,072㎡ アリーナ 砂入り人工芝 天井高(最高部35.5m 最低部16.5m) 面積9,707㎡ (124.45m×78.00m) 観客席 4,704席(補助椅子使用約10,000人収容可能) 諸室等 大会議室(60人) 小会議室(30人) 控室1・2(各24人) 準備室(100人) 練習室(189㎡) 幼児室(42㎡) ロッカー室(4室) シャワー室(4室) 映像装置 幅7.36m×高4.80m 駐車場 専用50台(別途、四日市競輪場との共用約3,000台)	
		<ul style="list-style-type: none"> ・一般公開 ・スポーツ教室 	

2. 運営状況

項目	実施計画	実施内容 (事業報告書)	計画対比
開館日数	307日	320日	13日
開館時間	9:00~21:00	9:00~21:00	—

3. 利用実績

項目	実施計画	実施内容 (事業報告書)	計画対比
延べ利用者数	182,640人	212,849人	30,209人
平均利用率	99.7%	99.4%	△0.3%

4. 事業収支

(単位:円)

項目	実施計画	実施内容 (事業報告書)	計画対比
利用料金	37,821,000	41,263,110	3,442,110
事業収入	900,000	805,000	△ 95,000
指定管理料	57,660,000	57,660,000	0
収入計	96,381,000	99,728,110	3,347,110
人件費	21,500,000	21,500,000	0
管理費	73,981,000	76,397,234	2,416,234
消耗品費	2,184,000	2,905,863	721,863
燃料費	460,000	612,939	152,939
印刷製本費	251,000	213,460	△ 37,540
光熱水費	20,000,000	22,037,962	2,037,962
修繕料	3,303,000	3,020,703	△ 282,297
通信運搬費	500,000	446,636	△ 53,364
広告料	261,000	50,000	△ 211,000
手数料	105,000	75,033	△ 29,967
保険料	1,000,000	991,780	△ 8,220
委託料	45,300,000	45,300,000	0
賃借料	517,000	333,858	△ 183,142
備品購入費	0	307,200	307,200
その他	100,000	101,800	1,800
事業費(ソフト事業等)	900,000	805,000	△ 95,000
一般管理費	0	0	0
支出計	96,381,000	98,702,234	2,321,234
収支	0	1,025,876	1,025,876

平成20年度 四日市ドーム 運営状況 チェックシート

1. 運営企画

項目	実施計画	実施内容	計画対比	検証・分析等	適否
開館日数	307日	320日	13日	全国大会等開催時には休館日も開館するなど利用者の要望に柔軟に対応している。自主事業では、ビギナーコースとステップコースを設け、受講希望者が選択できるよう配慮されている。	適
開館時間	9:00～21:00	9:00～21:00	計画通り		
事業開催	6講座開催	8講座開催	2講座		

2. 利用実績

項目	実施計画	実施内容	計画対比	検証・分析等	適否		
延べ利用者数	個人利用者数	5,551人	5,616人	65人	開館日の増や商業系イベントの開催があったことから利用者数は約3万人の増となった。自主事業については昨年度から倍増しており一応評価できる。また、稼働率も高水準を維持しており、管理運営は適切に行われている。	適	
	団体利用者数	176,460人	205,995人	29,535人			
	事業参加者数	629人	1,238人	609人			
事業参加者実績	スポーツ教室	629人	1,238人	609人			
	稼働率	平均	99.7%	99.4%			△ 0.3%
	平日	統計なし					
	土日祝	統計なし					

3. 事業収支

(単位：円)

項目	実施計画	実施内容	計画対比	検証・分析等	適否
利用料金収入	37,821,000	41,263,110	3,442,110	開館日の増や非スポーツ系イベントの開催があったことから利用料金収入が好調であった。自主事業については、約90%の達成率であり概ね良好と判断される。	適
指定管理料	57,660,000	57,660,000	0		
自主事業収入	900,000	805,000	△ 95,000		
収入計	96,381,000	99,728,110	3,347,110		
人件費	21,500,000	21,500,000	0	(勤務体制：正職4人、臨時2人、委託8人)計画どおりの配置となっていた。	適
管理費	73,981,000	76,397,234	2,416,234	管理費のうち消耗品費と光熱水費で計画額をかなり上回る支出がなされている。	
消耗品費	2,184,000	2,905,863	721,863		
燃料費	460,000	612,939	152,939		
印刷製本費	251,000	213,460	△ 37,540		
光熱水費	20,000,000	22,037,962	2,037,962		
修繕料	3,303,000	3,020,703	△ 282,297		
通信運搬費	500,000	446,636	△ 53,364		
広告料	261,000	50,000	△ 211,000		
手数料	105,000	75,033	△ 29,967		
保険料	1,000,000	991,780	△ 8,220		
委託料	45,300,000	45,300,000	0		
賃借料	517,000	333,858	△ 183,142		
備品購入費	0	307,200	307,200		
その他	100,000	101,800	1,800		
事業費(ソフト事業等)	900,000	805,000	△ 95,000		
一般管理費	0	0	0		
支出計	96,381,000	98,702,234	2,321,234		
収支	0	1,025,876	1,025,876		

総合コメント

大規模な大会やイベント時には休館日も開館するなど利用者の要望に柔軟に対応しており、結果として開館日数、利用者数、利用料金とも計画を大きく上回ったことは高く評価できる。また、自主事業についても、レベルに応じた講座が選択できるよう配慮されており、受講者数も倍増していることは一定の評価ができる。ただし、主に女性を対象とした健康志向に偏っているため、内容を見直すなどして、より魅力ある事業を展開してほしい。運営状況については、総じて実施計画を上回っており、適切な管理運営がなされている。

平成20年度 四日市ドーム 運営状況 チェックシート①-2

項目		事業分析	適否判断
利用実績		大規模な大会やイベント時には休館日も開館するなど利用者の要望に柔軟に対応しており、結果として利用者数は、前年度に比べ約30,000人増加した。	適
事業 収支	収入	開館日の増加や非スポーツ系イベントの開催があったことから利用料金収入は前年度に比べ3,000千円以上の増収となった。 事業収入については、予算額の約90%であったが、事業内容の見直しなどにより更なる増収の余地があると思われる。	適
	支出	管理費のうち消耗品費及び光熱水費で予算額との乖離がみられる。消耗品費については、施設の小修繕など可能な限り職員で対応した結果、支出額が増えたものと考えられ、修繕料の縮減にも寄与する形となっている。また、光熱水費については、開館日の増加や利用者が増えたことで相対的に電気使用料や上下水道使用料が増えたことによるものと考えられる。	適